



ピアニスト 黒岩航紀 特別インタビュー

2025 年 3 月 1 日 (土) に宇都宮市文化会館
にて開催されるリサイタルについて、お話を
伺いました。

◆黒岩さんは 4 歳から高校卒業まで宇都宮で過ごされ、これまで何度も宇都宮で演奏されていますね。あらためて地元で演奏することへの思いはいかがでしょうか？

幼少期から青春時代を過ごした宇都宮を離れてからも、自身には宇都宮の血が通っているという思いが強く、地元への特別な思いがあるので、こうして戻って演奏できることは感無量です。

特にこの数年間は激動でしたから、私自身にも様々な良い変化があったと自負していますが、それも含めて、今の等身大の私の音楽を愛する宇都宮でお披露目できることは、これ以上なく喜ばしいことなのです。

◆今回のリサイタルのプログラムの特徴やこだわりなどをお聞かせください。

前半では、今年生誕 150 周年を迎えたラヴェルを主軸に、シャブリエ、フォーレといった、フランスの作曲家を辿ります。「ラ・ヴァルス」のような華やかな作品もありますが、フランスらしい色彩感に溢れた小品を取り揃えました。

後半には、ラヴェルが後に管弦楽に編曲したことでも有名なムソルグスキーの「展覧会の絵」を演奏します。私にとって、音楽人生の中でも大切なレパートリーの一つなので、この特別なリサイタルで演奏できること、聴いていただけることを、心から楽しみにしています。

◆リサイタルへの意気込みをお聞かせください。

プログラムから、その構成まで、何度も熟考と吟味を重ねてこだわり抜きました。こんなに悩んだことはないというくらい悩みました。

時間をじっくりかけた入念な準備、妥協のない表現の追求を経て、自信を持ってお届けできるものになっているのではないかと思います。

地元・宇都宮への愛情と演奏にかける情熱を伺い、ますますリサイタルが楽しみになりました。
黒岩さん、ありがとうございました！